

健康と環境を守る

# 保健環境センターだより



(HPはこちら)

## 急性呼吸器感染症 (ARI) サーベイランスが始まりました!

### ARI サーベイランスって何?

ARI サーベイランスとは、以下の症例定義(★)に一致する患者やその患者の病原体の情報を、統一的手法で継続的に収集・分析し、その結果を還元する取組のことです。

#### ★症例定義

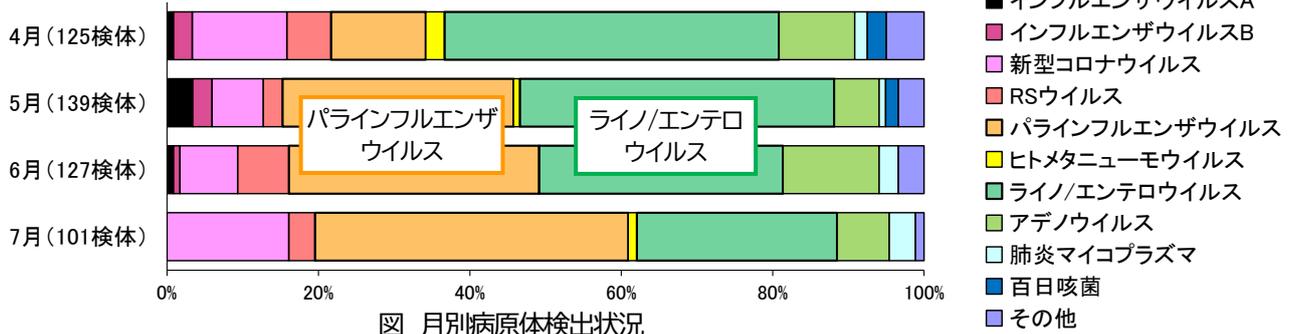
咳、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例



ARI の発生動向を把握すること及び未知の呼吸器感染症が発生し増加し始めた場合に迅速に探知することを目的に2025年4月7日から開始されました。

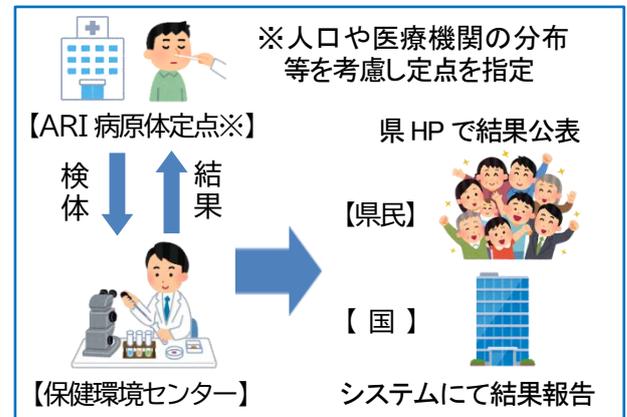
### 病原体の検出状況

栃木県内(宇都宮市を除く)において、2025年4月7日～7月31日に採取された検体は、492検体であり、検出された病原体は下図のとおり様々ですが、その中でもライノ/エンテロウイルスやパラインフルエンザウイルスが多く検出されました。(微生物部)



### 病原体の検出

栃木県保健環境センター微生物部では、県内の7医療機関(ARI 病原体定点)でARIと診断された患者から採取された検体について遺伝子検査等を行い、病原体の検出結果を毎週 HP に掲載するとともに、国への報告を行っています。



ARI サーベイランスにより、インフルエンザや新型コロナウイルスを含む ARI の原因病原体を把握し、みなさまに情報を還元して参ります。詳細はこちら



その他の感染症についてはこちら



栃木県気候変動



## 県内7地点で猛暑日 が過去最多!

統計開始以降の4～10月の猛暑日の日数を比較したところ、2025年の猛暑日は、8月31日時点で既に県内7地点※で過去最多となりました(県調べ)。  
※佐野、小山、宇都宮、大田原、鹿沼、那須烏山、五十里

栃木県気候変動適応センターでは、栃木県の実情に即した気候変動による影響や将来予測に関する情報を収集・分析しています。熱中症対策を実施しながら、暑さにも「適応」していきましょう。



将来予測は「とちぎの気候変動 今と未来」でチェックするまろ〜☆

県HP▶



# マイクロプラスチックを減らすために

## マイクロプラスチック問題とは

近年、プラスチックごみによる海への汚染が問題になっています。

プラスチック製品は紫外線などで劣化して細かくなりますが、それ以上は自然に分解されない(自然に還らない)物質であるため、長期にわたって海に残り続けます。特に、5mm以下は「マイクロプラスチック」と呼ばれ、生物が誤食し生態系へ悪影響を及ぼすことが懸念されています。

さらに、一度海に出てしまったマイクロプラスチックは、回収することが難しいことも問題です。

## 川や海を守るために わたしたちにできること

海に流れ出るプラスチックごみのうち、約8割は陸から排出されたものが原因と考えられています。これまでの日常生活を見直し、私たちが使うプラスチック製品が、できるだけごみとならないように努めましょう。

### ○プラスチックごみを減らす

- ・マイバッグやマイボトルを使う。
- ・洗剤やシャンプーなど、詰め替え用があるものを選ぶ。



### ○ポイ捨てをしない



### ○屋外で使用するプラスチック製品の 使い方を工夫する

- ・おもちゃ、ポリバケツ、せんたくばさみ、ハンガーなどのプラスチックでできたものは、庭やベランダに出したままにせず、使うときだけ持ち出す。



### ○ごみ置き場のごみが散らからない ようにする

- ・分別し決められた日に、ごみステーションへ出す。
- ・ゴミ袋をネットなどで覆う。



### ○子供会や自治会の清掃活動に参加する

## 講座を実施しました！

2025年7月、栃木県内の小学5、6年生を対象に、とちぎ子どもの未来創造大学で夏休み科学講座『海洋プラスチックゴミを減らすために「マイクロプラスチックを学ぼう」』を開催しました。



講座内容 ～どんなことを学んだの？～

### ○プラスチックの種類と特徴を知る

身近に使われているプラスチックを、材質ごとに分類し、様々な種類のプラスチックがあることを学びました。

### ○プラスチックの浮き沈み実験

水道水、海水、10%濃度塩水を入れたペットボトルに、プラスチックの破片を入れ、浮き沈みを観察しました。



プラスチックが浮いて、川を流れ海に出ることを確認しました。

### ○県内の川から見つかるマイクロプラスチックの観察

事前採取した川砂からマイクロプラスチックのようなものを探し出し、顕微鏡で観察しました。

身近な川にもマイクロプラスチックがあることを体感しました。



私たちが散乱させてしまったプラスチックごみが、川から海に出て、海洋生物に悪影響を及ぼしていることを知り、プラスチックごみを減らすために自分ができることを考えてもらいました。(化学部)

他にも  
保健環境学習講座を  
用意しています。



ぜひホームページをご覧ください。→